

何度失敗しても必ず笑顔で挑戦

夏休み明けから続いていた1・2年生の登校禁止期間も終わり、一足先に登校していた3年生とともにようやく全校揃っての学校生活が再開されました。

さて、この夏、1年延期されていた「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されました。今大会から新しくスケートボード・ストリートが種目に加わり、その中でフィリピンのマージェリン・アルダ・ディダル選手が注目を集め、SNS等でも話題を呼んでいました。演技後は、失敗しても楽しげな笑顔を見せる、何度失敗しても必ず笑顔で演技を終える、その姿に「点悪かったのに、ずっと笑ってて、明るくて!」や「ダメだったー!あはは!って感じの、ポジティブ笑顔!」といったコメントが寄せられていました。また、常に笑顔で他の選手へのコミュニケーションを欠かさず、大技決めたら全力で自分の事のように喜ぶ姿も印象に残っています。

皆さんにもディダル選手のように、失敗してもまた立ち上がれば良いと常に笑顔で、どんなことにも、何度でも挑戦して欲しいと思います。人生において、失敗はつきものです。全て上手く行く人間などいません。ただ、失敗した後にこそ、どう前向きに、ポジティブに考えられるかが次へのステップにつながっていくのだと思います。古くから「笑う門には福来たる」ということわざがあります。他にも「笑って損したもなし」や「和気財を生ず」など類似のことわざもあります。笑っていると自然と活力が湧いてきます。

現在流れているジャパネットのCMに「挑戦する人にはいい結果ばかりが待っているとは限らない。でも私たちは勝ち負けだけでははかれない輝きを見つけて何度でもまた挑戦する」というフレーズがあります。いよいよ10月です。一年の折り返し地点に来ました。「高い志」と「チャレンジ精神」を持ち、「ポジティブ」に、自分の進路実現のため一歩ずつ確かな歩みを続けてください。(文責 堀)

『3年の窓』 天王山である夏休みを越えて

受験生である皆さんにとって、天王山である夏休みが終了しました。充実した長期休暇となったでしょうか。なぜ重大な局面に天王山を例えに使われるのでしょうか。「1582年、明智光秀と羽柴秀吉の一戦は、世に「天王山の戦い」といわれ、この山の名を広く有名なものにしました。ただし、天王山が戦場になった事実はなく、山崎の合戦自体は、東山麓で繰り広げられたと伝えられています。天王山の占有が雌雄を決したと伝えられていることから、「天王山」という言葉は、今でも勝敗や運命の重大な分かれ目で使われています。」(<https://serai.jp/hobby/1017244>より参照) さあ、受験は戦いです。負けるな!!勝て多治高!!

さて、僕はテレビが好きで面白い番組があったので、そこでの話を紹介したいと思います。「ロッチと子羊～迷えるあなたに哲学を」というNHKの番組です。今回は、商店街編で小売業を営んでいる経営者の「先延ばし癖が直らない」という悩みに答える内容でした。この人は、お金の管理が苦手でつつい後回しにしてしまう自分に悩んでいました。大人でも皆さん高校生と同じ悩みを持っています。そこで哲学者メルロ＝ポンティ(1908-1961)さんの解答は「先延ばしをするのは意志が弱いからではありません。まず行動を起こせば気持ちは後からついてくるのです。」というものでした。自転車に初めて乗った日ことを考えましょう。自転車については、始めは乗りたいという意思がありますよね。つまり意思(乗りたい)が行動(乗ってみる)を作ります。でも上手く乗ることはできません。乗れないのは意思が弱いからではありませんね。しかし失敗(行動)を繰り返して自信(意思)をつけることで乗れるようになりますね。実際先延ばしを解決するにはどうしたらよいのでしょうか。それには環境を変えてみる(行動)ことが良いのではないのでしょうか。行動によってやりたい気持ち(意思)をつくるのです。カフェでカッコ良く経理の仕事をする、椅子をゴージャスにしてみる。などフクフクしませんか?勉強も同じです。楽しむ為はどうしたらよいか考えてみませんか?

(文責 渡邊完)メルロポンティさんの写真⇒



♪2年の窓♪

『白隠禅師坐禅和讃』について

私のような年齢になりますと、結婚式に招待されることはまずありませんが、お葬式に参列することはまああったりします。(葬式に縁があるなんて嫌なものです…。)

東濃地方の仏教の宗派の分布はよくわかりませんが、割と『白隠禅師坐禅和讃』というお経を聞くことが多かった記憶があります。今回はそのお経を聞きながらふと思ったことについて書きたいと思います。まずは、その冒頭をちょっと載せますと、

衆生しゅじょう本来ほんらい仏なり 水と氷のごとくにて 水をはなれて氷なく 衆生の外に仏なし
衆生近きを知らずして 遠く求むるはかなさよ たとえば水の中に居て 渴かつを叫ぶがごとくなり
長者の家の子となりて 貧里ひんりに迷うに異ならず

と、続きます。普通に生活している私たちの中に仏様がいらっしゃるのだ、私たちはそれに気がついていないのだというような意味だと思っています。

さて、私たちは新型コロナウイルスの蔓延により、従来の学習方法が制限されています。ですから、中には自分の成績が伸びないのはこの学習環境のせいだとか、もしくは、もっといい勉強方法があれば自分ももっと理解できるはずだ、と思っている人もいることでしょう。しかし、ちょっと考え方を変えてみたらどうでしょう。皆さんの周りには、たくさんの先生方がいらっしゃいます。スタディサプリという便利なアプリケーションもあります。常々感じているのですが、質問してくる人が少ないですね。すべて理解できているのでしょうか。質問にすぐ答えてもらえる恵まれた環境にいるのですよ。それにもかかわらずそれを利用しないということは、先述した「水の中にいて渴つを叫ぶがごとく」に似ていると思いませんか。どうぞ上手に私たち教員を使ってください。 (文責 和田)

♪1年の窓♪

☆力を合わせて乗り越えたオンライン授業☆

約5週間にわたる学年全員で受けるオンライン授業を経て、前期期末考査を迎えようとしています。

私達教員は、普段は他の先生の授業を受けさせてもらう機会が少ないですが、この数週間は、他の先生の授業も参加し放題！楽しくて学びの多い時間でした。皆さんはどの授業が心に残っていますか？

河原先生の $\sin\theta, \cos\theta, \tan\theta$ の授業、特に「小・中・大」で覚えるやり方は、目から鱗でした。私でも覚えることができました！いつも登場する馬くんが、ある日海にいく準備をしていたのも覚えています。

末次先生の俳句の授業では「なんか歯が生えてきた～」と赤ちゃんが言っていましたね。みんなの Thinking Time を測るためにウサギさんのタイマーを握る手がプルプル震えていたおちゃめな末次先生ですが、スライド上でテンポよく提示するため、1枚に50ものアニメーションをつけていらっしゃいました。

後藤先生の数学βの授業では、ウイルス検査の結果が正しいか否かの『確率』について教えてもらいました。難しかったですが、ニュースで毎日のように耳にする話題と関連付けるとより理解も深まりますよね。

大西先生は最初、「パワーポイントで可愛らしくスライドを作るのは慣れてないです。苦手です。ほら、この愛想のないスライド！」なんておっしゃっていましたが、みんなが見やすく目に優しい緑色をモットーに、日々イラストが増えていきました。

なかなか覚えられないことも、授業や友達との会話など、エピソードによって記憶に残ることが多々あります。そしてそこには驚きや温もりがあります。「いい結果を出したい」と頑張る人ほど、考査期間は苦しい時間です。しかし、授業にこめた先生たちからのメッセージ、わからないことを教えてくれた友達の言葉、それらを思い出しながら、この4日間を乗り越えましょう！ テストは作問者との対話です。(文責 桑原華)